
誰か . . .

1412

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誰か・・・

【Nコード】

N0774U

【作者名】

1412

【あらすじ】

コナンになってから1年経ったある日、コナンはいきなりクラスメイトからイジメを受けるように・・・

始まり

【蘭】 「コナンくん。全然ご飯食べてないけど・・・」

【コ】 「ごめん、食欲がないから」

【蘭】 「あっ！別に謝らなくていいから。でも、最近食べる量少なくなってるけど、身体の調子悪いの？」

【コ】 「別にどこも悪くないよ」

【蘭】 「本当に？」

【コ】 「本当に！！ でも今日はもう寝るね」

【蘭】 「いいわよ。でも明日は全部食べてもらうつからね」

【コ】 「うん、お休みなさい。蘭ねーちゃん」

.....2週間前.....【コ】
「よう！」

【哀】 「元気ね・・・」

【コ】 「灰原また徹夜したのか（笑）」

【哀】 「ええ・・・なにしてたかは教えないけど」

【コ】 「分かってるって。いつもいつてくんねーし」

「ガラ・・・バン！」

【コ】 「よっ！」

シ・・・・・・・・ン

【哀】 「おはよう・・・」

【歩】 「おはよー！哀ちゃん」

【光】 「おはようございます。灰原さん」

【元】 「よっ！灰原」

【コ】 （あれ？聞こえなかなのか）

始まり（後書き）

すみません。駄文で読みにくいと思いますが、これからもお読みいただければ嬉しいです。

始まり2（前書き）

最後の部分だけ変えさせてもらいました。

始まり2

「キーコーンカーコン」

もう1度声をかけようとしたとき1時間目のチャイムが鳴った

【コ】（まあ いいか。またあとで・・・しっかしメンドーだな）
俺はまだ気づいていなかった。これが悪夢のはじまりだとは・・・

「キーコーンカーコン」

【コ】（はあ、やっと終わったぜ。しかし今日は1回も歩美達に呼ばれなかったな）

【哀】「あら、随分疲れてるわね（笑）」

【コ】「ああ、ものすごく簡単な授業だったからな。慣れたとはいえつかれんだよな」

【哀】「そりゃそうでしょ。見た目は小学生でも、中身は高校生なんだから。」

【コ】「へいへい。おい元太達いくぞ」

【歩、光、元】

「ガタッ スタスタ・・・」

【コ】「おい、・・・なあ灰原なんか今日あいつらおかし

くね。授業の時だっていつもなら話しかけてくんのに、今日は1回も話しかけてこなかったんだぜ」

【哀】 「そうかしら・・・いつもと変わらないと思うけど」

【コ】 「そうか・・・ならいいけど」

【哀】 「そうそう、私明日からしばらく学校こないから。」

【コ】 「はあ！なんで」

【哀】 「それは秘密」

【コ】 「あっそ、それじゃ帰ろっぜ？」

【哀】 「ええ」

そう・・・この日から悪夢のような日々が始まったんだ。

貼りつけ笑顔（前書き）

ホントに幼稚なサブタイと文章ですみません。

貼りつけ笑顔

あの日から2週間過ぎたいま状況はあきらかに悪化していた。無視から始まって物を隠される・暴言を吐かれる・机やランドセルに落書きされる・暴力を振るわれ、しまいには机の上に仏花がおかれるようになった。

俺はだんだん身心ともにボロボロになった。しかし蘭には心配をかけたたくない。俺は蘭の前ではつくった笑顔を必死で張りつけていたでいた。

【蘭】 「コナンくんおきなさい」

〔ガチャ バツ〕

【蘭】 「ちょーちょっとコナンくんこのあざどうしたの!？」

【コ】 「えっ、」

コナンは焦った。

【コ】 「えっとねえ、ぼーとあるいてたら電柱に当たったの。」

【蘭】 「コナンくんって意外とまぬけなんだね。今度からは気を付けてよ。コナンくん」

【コ】 「はい。」

(あつぶねーなんとかごまかせた。)

「ねえ蘭ねーちゃん今日は博士ん家に行くから遅くなる」

【蘭】 「わかったわ。じゃあこれついでに持っててくれる？」

【コ】 「うん、いいよ じゃ行ってきまーす」

【蘭】 「いってらしゃーい、今日は電柱にぶつからないようにね
ー（笑）」

【コ】 「蘭ねーちゃん！それは言わないで！」

学校で

ホントは学校なんて行きたくない。でもここで休んでしまったらあいつらに負けるということになってしまふ。そんなのはプライドが許さない。

しかし、無理をしているからなのか食欲がなくなってきた。それどころか食べると吐きそうになる。やはり精神は少しずつやられてきていた。

~~~~~学校~~~~~

「ガラリ」

【クA】 「よお、江戸川。お前まだ学校くんのか」

【コ】 「はあ？そりゃーくつだらねーいじめになんて負けたくないだけだ」

【クA】 「ほおー、やっぱこれくらいじゃオメーは登校拒否になんねえーか」

【コ】 「もう、いい加減やめれば？オメーの言う通り俺はどんなにひどくなるーが登校拒否なんかしねーから」

【クB】 「おい！てめえいい加減なことぬかしてんじゃねえ」

【クA】 「そのとおり。なあ江戸川、お前をいじめようっていい始めたのって誰かしるか？」

【コ】 「ああ俺の予想だと光彦だろ？」

【クA】 「正解。なぜ分かった？」

【コ】 「簡単なことだ。光彦は俺がいじめられはじめてから学校にこなくなつた。どうせメールで指示がきてたんだろ？」

【クA】 「それも正解。だが一部違う別に俺達は光彦からの指示だけで動いていたわけじゃない。俺はお前がきにくわなかつた、最初からな」

【コ】 「んで、光彦が俺をいじめようって言ってそれに乗つたんだな。」

【クA】 「そつ」

【コ】 「お前さーいつか友達になくなつちまうぜ？」

【クA】 「はあ？オメーに言われても説得力ないぜ？その友達の光彦にいじめられてんのに（笑）」

【クBCD】 「ちげねえーな あははははははは」

【クA】 「これからもたっぷりいじめてあげるよ  
あははははははは」

こいつらこわれてる。コナンは背を震わせた。

## 学校で（後書き）

すみません。先週はテスト勉強におわれていたので投稿できませんでした。すみません。

## 博士宅で

~~~~~放課後~~~~~

【コ】 「はあゝ疲れた。今日はあざうつゝ、こごごしやつ、隠せねー。とりあえず博士ん家いこ」

「スタスタ・・・」

【コ】 「博士」

【博】 「おっ、新一どうした」

【コ】 「あざがすぐ治る薬あるか？」

【博】 「ないよ。でもどうしてほしいんじゃ？」

【コ】 「ここにあざあるだろ。蘭に見せる訳にはいかないんだよ。」

【博】 「ほんとじゃ、しかしひどいあざじゃないか、なにかあったのか？」

【コ】 「な、なんでもないよ。ちょっとドジやったただけだ」

【博】 「しかしのゝドジやったとしてもちよつとやさつとじゃこまでひどくならんぞ」

【コ】 「いつ！博士痛い」

【博】「お、すまん。で、このあざどうしたんじゃ」

【コ】「だからドジったんだって!」

【博】「しかしの」 「まあいいんじゃない彼がそーいつてるんだから」

【博】「哀くん!」

【コ】「灰原!いつからそこにいたんだ!」

【哀】「あなたが博士にあざを触られてわめいていたときよ」

【コ】「そうか、」 (やっぱ気配よめねー)

【哀】「なんかいったかしら?」

【コ】「いいえ!そーいえばさお前いつまで学校こないつもりだ?」

【哀】「来週の月曜からいくつもりだけど」

【コ】「あのさー学校には俺がいいって言うまでこないでくんねーか」

【哀】「はあ?なんで私があなたの言うこときかなきゃいけないのよ」

【コ】「いや、別にいいんだけど・・・」

【哀】「ね、工藤君もしかしてそのあざと関係あるのかしら?」

【コ】 「あ、ああ」

【哀】 「ふーん。ってことはあなたいじめられてるわね」

【コ】 「ああ」

しばらくの間、博士宅はしずまりかえった。そして・・・

【哀】 「分かったわ」

【コ】 「えっ!？」

【哀】 「あなたいじめられてるわね。」

【コ】 「な、なんでわかんだよ!？」

【哀】 「簡単なことよ。まずそのあざ、博士がいったとおりドジただけではそうまで酷くならない。2つ目貴方が隠そうとしてるから、まあそこから考えると貴方はいじめられてるってでてくるわ」

【コ】 「灰原スゲーな」

【博】 「新一当たってるんじゃない？」

【コ】 「ああ」

【哀】 「じゃ、私は明日から行くから」

【コ】 「はあ？灰原さーん俺の話きいてました？」

【哀】 「ええ、きいてたわよ。」

【コ】 「じゃなんで？」

【哀】 「貴方を助けてあげようと思ったんだけど？貴方1人じゃどうしょーもないでしょ？」

【コ】 「確かに。ありがとな」

【哀】 「別にいいわよ。貴方にはいつも助けられてるから」

最後のほうは小さくてコナンには聞こえなかった。

博士宅で（後書き）

次回で終わります。

終結

次の日俺達はいじめを終わらせるために学校にいった。ちょうど光彦達もきていた。

【コ】 「よう、光彦」

【光】 「おはようございます、江戸川くん、なんでしょうか？」

【コ】 「オメーが俺をいじめようって言い出したらしいな？」

【光】 「ええ、そうです。」

【コ】 「なんでだ」

【光】 「ただの暇潰しですよ」

【コ】 「はあ！？ふざけんな！！なにが暇潰しだ！俺はオメーの道具じゃねーぞー！！」

【光】 「・・・。」

【コ】 「おい！なんか言え「江戸川くん少し落ち着きなさい」

【哀】 「円谷くん、あなたにとって江戸川くんはどんな存在なの？」

【光】 「それは・・・友達です」

【哀】 「じゃ、その友達を何故いじめるのかしら？さっき江戸川

くんがきいたら《暇潰し》と答えたわね、あなたにとって友達って暇潰しでいじめていいような存在なのかしら？」

【光】 「いいえ、違います・・・」

【哀】 「江戸川くんあなたきいていてどう思った？」

【コ】 「サイテーだと思ったけど」

【哀】 「けど？」

【コ】 「けど、もうやらないって言ったら許そうかなと」

【哀】 「貴方お人好しすぎるわよ（はあく）でもあなたがそう言うならかまわないわ」

【コ】 「光彦、もうやらないか？」

【光】 「はい。コナンくんいじめてごめんなさい！」

こうしてコナンのいじめはなくなりました。

終結（後書き）

すみません。

まとまっていな文章

投稿がめっちゃ遅れて

ホントすみません

たぶん多くの読者様は終わりがたに不満がありますと思います。ホントすみません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0774u/>

誰か・・・

2011年10月9日06時06分発行